

令和7(2025)年

9月号

和製朝顔「江戸風情」に
種がでないのです…… 答

心耕

shin kouch
しん こう

西光寺口報

今月の行事

十二日(金)はじめの一步

午後一時? 浄土真宗の基礎を学びます

秋季彼岸会 午後一時?

二十三日(月) 後夜礼讃 老住取

二十三日(火) 晨朝礼讃 住取

二十四日(水) 日中礼讃 三島さん

勉強会 壮年会 三日 午後四時?

婦人会 十日 午前十時?

写経会 十九日(金) 午後一時?

節談ツアー築地 十一日(木)

草取り 十四日(日) 午前八時?

お茶の勉強会 十六日(火) 午前時

十月のお茶に向いて勉強です

おみかき 十八日(木) 午前時?

寺力石 二十八日(日) 介護リホーム

日が 毎週火曜 午後一時? 三喜林

お朝事 毎朝六時半?

お盆明け、法事と娘の城スタ

ンプの為、熊本に行た。熊本に

は不思議な名物がある。か

らし、蓮根だ。何故、かうを突、込

めたのか。店員さんが教えてくれ

た。昔、お殿様が病弱で、養

強壯の為に、蓮根を食したたが、食

べなかつた。そこで、からしを詰めて

食した事から、始まつたそう。

薬を食べやすとする為なのだ。

阿弥陀仏、我々に口にしやすい

様に、念仏と成つた。いつか、からし

蓮根で、説教を本を作りたいのだ。

合同墓進捗状況

ようやく、市に申請ができました。

結果に数ヶ月かかります。

ご家庭彼岸参拜希望の方

お寺まで連絡下さい。

法座案内

十二日(金) 十三時～十五時

はじめの一步 第九回

浄土真宗の基礎を学んでいます。皆さんからいただいた質問やアンケートにお答えします。初めての方でも大丈夫です。

二十二・二十三・二十四日

秋季彼岸会

三日間ともに十三時～

彼の岸、極楽浄土を思わせていただく時間、いのちを考える時間、阿弥陀如来のすくいを考える時間、それが彼岸会です。どれか一日はお参りを心がけましょう。

二十二日(月) 後夜礼讃 若住職
二十三日(火) 晨朝礼讃 住職
二十四日(水) 日中礼賛 三島さん

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

十四日(日) 八時～九時 雨天中止

・写経会

十九日(金) 十三時～十五時

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 三日 十月は一日 十六時～
婦人会 十二日 十時～

・おみがき

仏具をきれいにします。簡単な作業です。

十八日(木) 十時～十二時 弁当付

・お茶の勉強会

十六日(火) 五百円 予約十日まで
お茶の基本を学びましょう！

・youtube 西光寺チャンネル新作配信！
節談説教「清地蔵由来物語」追加

他にもや紙芝居、アニメ、読経を上げています。QRからどうぞ！

・はじめてのヨガ

毎週火曜(祝日休) 十三時～ 毎回千円
ヨガマット持参 予約不要※二十三日休
インストラクターのマリコ先生がビューティージャパン千葉大会で優勝、次は全国

・みんなの寺カフェ

みんなの寺カフェ
介護リフォームとは？
講師：関 淑子(関のケアリフォーム代表)
「介護リフォーム」は、高齢者の住みやすい環境を整えるためのリフォームです。10年以上3000件以上の介護リフォームを経験した関代表が、高齢者の住みやすい環境を整えるためのリフォームについて詳しくお話しします。
9/28(土) 10:00～12:30
会場：西光寺(市原市根田723-1)
料金：大人500円 子ども無料
予約制：9/27締切 ※昼食付
場所：西光寺(市原市根田723-1)
連絡先：0436-22-7412 公式ライン
主催：みんなの寺カフェ 共催：西光寺

内容 「介護リフォームとは」

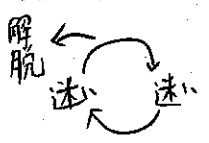
日時 二十八日(日) 十時～十二時半
昼食付 大人五〇〇円 子ども無料
予約制 お寺まで 締切 二十七日

・お彼岸家庭参り

家庭参りご希望の方は、お寺まで連絡をしてください

解脱げだつ

仏教を理解するには、
仏教が生まれたインド
では輪廻りんねという考え方



が土台にあることを知ることが大切です。輪廻りんねとは、生命は生まれ変わり、今生こんじょうで何を行なったかで来世らいぜが決まるといふ考えです。嘘をつけば、舌を抜かれるような地獄へ行き、浮気をすれば刃の木にいる異性を追いかけてタズタになるという地獄へ行きます。また、良いことをすれば良い世界に生まれ変わりますが、完全に苦しみの世界を抜け出すことができません。

現代人では、この輪廻りんねの思想を信じることは難しいかもしれませんが、私は人間の暴走の抑制装置だと考えれば理解できるのではないかと考えています。人間は追い込まれると何をするか分かりません。年末になると、人生を投げ捨てた人がとんでもない事件を起こすことが多くなります。しかし、そこで人生を投げ捨てずに耐えれば来世では良い世界に生まれ変わることができるのです。

この迷いの輪廻りんねを抜け出すことを解脱げだつといいます。悟りの境地です。そして、自ら解脱げだつすることが、他を導くことになるという阿弥陀あみだぶつ仏が生まれました。

小さなウンが
大きなウンに

考かん任にん仏ぶつ

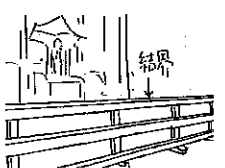
こんなところに

仏教用語

用教仏近
語紹介して
います。

結界けつかい

西光寺にはありませんが、
他のお寺さんに行きますと、
本堂の中に木の柵が置いてあ



るところがあります。これを結界けつかいといいます。ここから先は○
○な人だけが入れるという境界を作るために設置してある訳
です。

仏教における結界の始まりは、戒かいを受けるときや、出家者しゅつがしやが
自らの行いを問う布薩ふさくというときに結界が設けられ、その中で
の独自のルールが設定されていました。修行者たちが何かを行
いやすい場所を作り出すために結界けつかいが設けられ、そこから女性
に対してここからは入れませんという結界けつかいが近世まで多くあ
りました。

女人禁制にまつわる悲話として石童丸いしどうまるの話が、浄瑠璃じやうるりや講
談、歌舞伎などでも伝えられています。

平安時代に、妻と妾の関係に悩んだ苅萱道心かりかやどうしんが、法然聖人の
もとで出家しゅつがをします。後に高野山こうやさんに行き、妻と息子の石童丸いしどうまるが
会いに行こうとしますが女人禁制の為、石童丸のみが入山しま
す。苅萱道心を父とは知らずに父の事を尋ねますが死んだと伝
えられ、下山すると母が病死していました。悲しみの中、石童丸
は再び入山し苅萱道心に理由を話し、出家をするのですが、つ
いに親とは告げなかったというお話です。

衆生往生の華2

『大經』末三

南無阿弥陀仏 なんまんだぶ なんまんだぶ

「あらゆる衆生、その名号を聞きて、信心其信歡喜せんこと乃至一念せん。至心に回向したまへり。かの国に生れんと願すれば、すなはち往生を得、不退正定の衆轉に住せん。ただ五逆と正法を誹謗するものとをば除く」とあります。本当に聞くと云う事は簡単なことでは有りません。我々の思考は色々な事で覆われていて、その色々な情報を通して聞くことに成り、純粹に聞くことがないのです。曇鸞大師はそのことを自分にを注視照らして不淳と表現しています。親鸞聖人は「聞もんというは、衆生、仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし」とあり、この疑心が常に私達を覆っていることに注視が必要かと思うところです。この疑心を或いは色々な事で惑わされている私自身を観察し、どうしようもない具縛の凡夫で臨終の夕べまで消えることが無いと知ったその時、一念・時刻の極足「あゝ」こんな私がすく拯たすわれていると名号が聞こえて来て信心よろこび歡喜します。それは名号阿弥陀如来の方から常に暇なく倦むことなく私に知らしめていたのだと尊敬し感謝の意を伝えます。それが「至心に回向したまへり」です。弥陀の浄土に往きたいとなるのです。この「願発起ずれ

ば」の「ば」は順接の恒常条件と考えると「願うと決まつて」となり「すなわち」が確定してきます。浄土に往生することが決まつたので、これから後は不退轉の位にとどまるから、心豊かに安心して生活ができますよと仏陀釈迦が語っています。

この中で「かの国」とありますのは仏陀が語っているからです。十八願では「我が国」と阿弥陀法藏菩薩が語っているところから善導大師の「二河白道」の喩が思ひうかびます。釈迦の「かの国に行けよ」の發遣に弥陀の「直ちに我が国に來たれ」の召喚がこの十八願文と十八願成就文から生まれたのではないかと想像するところです。

この後に「唯除五逆誹謗正法」が有ります。十八願文の時の説明ではこの御文は不要だと説明しました。しかし下巻の成就文では無くてはならないのです。それは疑心暗鬼の満ち満ちた我々には注意喚起しなければならぬからです。下巻のこれから多く此の事を中心に語られるからです。親鸞聖人が見詰られた慚愧と言う事です。俺が俺の一生を送っている私達がビシヤナシ観シヤマクて認識すべきことだからです。『教行信証』の化身土巻へと繋がることです。

住職多感

暑い夏でも市原はまだましな方かもしれない。日本国中で三十七〜八度は珍しくもなく、どうかすれば四十度越えのニュースさえ届く。熱中症の心配は市原でも普段の暮らしになり、「水分取らなきゃだめですよ」と色んな人に声かけられる。歳をとった証拠だ。

二〜三十年前、八月上旬、朝の七時から夜の八時九時まで一人で盆の参りをこなしていたとき、丁度立秋の頃、夕暮れになれば車に吹き込んでくる風に秋を感じ、養老川沿いの土手道では、秋の虫の声が涼しさを感じさせてくれた。今は、お参りは全て若住職に任せているので、家で冷房の中、楽をさせてもらっているが、立秋など名前ばかりで、盆が過ぎても尚暑い。虫の声もほとんど聞こえない。にもかかわらず、若住職は子ども会のキャンプ、終って九州への祖母の三回忌のお参りと休む間がない。

九州から帰れば少しは楽になるだろう。

小・中学校の関東地区の同期会の世話役に少し忙しくなっている。十一月に集まりをやるのだが、九州・柳川からも出てくるぞの声が上がって、東京をほとんど知らない連中なので、何処まで案内すればよいのか迷っている。でも電話のやり取りが田舎の言葉そのままなのだ、とても嬉しい。

九月十五日 宗祖親鸞聖人御命日法座

午前八時半より

周利槃特②の仕上げに取り掛かっているのですが、阿弥陀経の意識が意外と進まない。どのあたりに苦労しているのかを話せば、それがそのまま法話になるのではないかと考えています。周利槃特①はほぼ出来上がっています。

お盆の法要には思った以上の方々のお参りがあり嬉しかった。仏教は聞くほどに味わい深くなっています。縁を探して聞いてください。ナンダブナナンダブ

十月の行事

- ・一日 勉強会
- ・十日 写経会
- ・十二日 草取り
- 勉強会・はじめの一步
- ・十九日 寺カフェ
- ・二十六日 日曜法座
- ・ヨガ 毎週火曜
- ・お朝事 毎朝

発行

浄土真宗本願寺派(西)
西光寺

〒二九〇—〇〇二四

千葉県市原市根田

七二三—一



TEL : 0436-22-7412
FAX : 0436-24-1652
HP : <https://www.saikohji.net>
MAIL : saikohji@saikohji.net